

石橙茶香清暑後 書窓梧韻晚涼餘

【読み】

石橙（せきとう） 茶香清暑の後 書窓（しよそう）梧韻（ごいん） 晚涼（ばんりょう）の餘

【意味】

石の腰掛けに座り、暑さが和らいだ後の涼やかなひととき、茶の香りを楽しむ。書斎の窓からは、梧桐の葉が風に揺れる音が聞こえ、夕方の涼しさがまだ残っている。

*石橙…石の腰掛 *清暑…暑気を清める、暑さを冷やす、涼しくすること *書窓…書斎の窓辺 *梧韻…梧桐の葉が風に揺れる音。

*晚涼餘…夕方の涼しさがまだ残っていること

【出典】 不詳（鄒炳泰・清）

※この詩句は、晩夏から初秋にかけての静かな書斎の情景を描いており、自然の音や香りを通じて季節の移ろいを感じさせます。詩の全容が不明なのでこの程度の解釈しかできません。